市政情報

○小樽市議会第4回定例会について　―　最後の最後に不規則発言‐無所属議員の暴挙・・・

　第４回小樽市議会定例会は、12月25日が会期末の予定でしたが、総務常任委員会における市長の虚偽答弁のため、一日延長。12月26日に最終本会議を開会し、議案を採決して、最後に森井市長への再度の辞職勧告決議案が提案され、その決議案の討論中、無所属議員が、前市長の名誉を棄損する内容、各市議会議員を侮辱する内容発言がありました。これに対して議会では、訂正と謝罪を求める動議が成立。また、その議員に対する懲罰を行うために議会内で調整が行われ、年の瀬迫る12月28日まで会期を延長することとなりました。

　　我々議員は、議会の品位を保つように発言しなければならず、公益に適わず、根拠も示さないままに他人の不利益な内容を発言してはいけない事になっております。小樽市議会で、懲罰委員会が設置されました。

中村よしひろ　活動報告・予定など

○議会会派視察報告

　10月30日から11月1日まで、議会視察に行って参りました。今回は、委員会視察で、私の所属する経済常任委員会は、小樽港利用企業である、新日本海フェリー社、新潟県、京都市にて視察を行いました。新日本海フェリー社のお話では、今小樽市が中断している港湾計画について、計画通りの実行を望まれておられること、岸壁等の整備も希望されていることを伺いました。実現できるよう取り組みたいと思います。新潟県では、新潟港の整備計画、将来計画等を伺いました。新潟県はしっかりと港湾計画を立てられており、東日本の日本海側の拠点港でもあるので、しっかりとした計画を伺うことができました。京都市では観光施策について。外国人観光客が増加する傾向にある中、その受け入れ対応について伺いました。日本の伝統都市である京都では、歴史的、文化的に価値ある有形無形のものが存在します。そこに触れる外国人が、その地域に住む人たちの生活の中で、ルールや文化を理解しながら観光を楽しんでいただくために、どのような取り組みを行っているのか、発生したトラブルや、その解決策、案内の方法などを学んで参りました。

課題が多い小樽市政。混迷する市政の状況に負けず、今後もしっかりと頑張ります。

中村よしひろ

**☆ご案内☆**

中村よしひろ後援会　新年の集い

**平成３０年　１月２８日（日）１５:００～　小樽運河プラザ３番庫にて**

会費　3,000円　チケットにてご案内しております。

○ぜひお越しください。中村よしひろを励ましてください。よろしくお願いいたします。

**第４回　国際スポーツ雪かき選手権**

～第20回小樽雪あかりの路も頑張ります！～

平成30年2月17日開催の、国際スポーツ雪かき選手権！

今年も第3ふ頭のマリン広場で行います。大会ご参加は勿論、色々な面で応援を宜しくお願い致します。

実行委員会のメンバーとして活躍していただける方も大募集中です。邪魔者の雪をスポーツ競技の糧にかえましょう。当日は、ボランティア雪かきも行います。皆さんも是非ご一緒に！**雪かきは・スポーツだ！！**

**・小樽雪あかりの路―平成30年2月9日から**

**今年は天狗山会場も企画等から応援します！**

・自民党街頭演説　金曜朝7:30～　主に小樽駅前にて

○寒い季節となりました。皆様お体にはくれぐれもお気をつけて、年末に向けてお過ごしください。

**自民党広報**

**小樽・後志と国のパイプ役**

・中村　ひろゆき

**10月の解散総選挙・ご支援有難うございます**

**お陰様で3期目も明るく・でっかく・堂々と**

**北海道第4選挙区　衆議院議員**

***今後ともよろしくお願いいたします！***

―今回の議会で、報道なども取り上げた情報です―

***市長への「再度の辞職勧告決議案」が可決***

第3回定例会で、市長への辞職勧告決議案が可決されました。それを受けて、市長は、「重大に受け止める。議会にも真摯に向き合う」としながら、全く改善が見られない状況です。それに加え、今定例会で明らかになった、港湾の除雪にあたり、冬直前に入札の制度等を変更し、結果、従来の業者が除雪業務に関われなくし、その結果、通常1社に請け負ってもらうものを3か所に地域分けし、除排雪コストが増加しただけではなく、市長の後援会関係者が経営する企業と、他1社だけが応札できる状況を無理やり作り出し、またも利益誘導を疑わせるような状況を作出したことなどを受けて、議会では、「森井市長に対する再度の辞職勧告決議案」が提出され、賛成多数で可決されました。2度目の辞職勧告決議案可決です。

***平成28年度小樽市会計決算　2年連続不認定***

当初10月初旬に行われる、決算特別委員会ですが、小樽市議会平成28年度決算特別委員会は、2週間以上の会期延長を要した第3回定例会と、衆議院解散に伴う衆議院議員総選挙実施のため、大幅に開会日程が変更となり、10月下旬から断続的に開会し、11月24日、最終の委員会で、採決を行いました。委員会の採決では、平成28年度一般会計決算は不認定となりました。理由は、市長交際費について、本来であれば増額が必要なら予算措置（議会で議決を行う過程）を経て執行するべきところ、他の費目から流用をして執行したこと、除排雪について、市民ニーズを満たしていないので、必要な予算付け、執行を行う事などが挙げられました。12月5日の本会議でも、認定の立場の議員が少数のため、不認定と決しました。

***１．民泊について***

　　来年6月施行の住宅民泊事業法を踏まえて

（１）北海道では条例の制定など、制度整備を進めている。小樽市では、北海道との情報交換や制度整備の

　　　状況はどうか。

（２）違法民泊等の問題も生じている。小樽市ではどのように対応しているのか。制度整備の状況とともに、

　　　町内会などへの説明や意見交換は行っていないのか。

***２．外国人観光客の受入れについて***

（１）外国人観光客の受け入れについて、今、市が認識している問題点は何か。

（２）日本の生活様式や文化を、外国人観光客に理解をしてもらうことが、今後において重要になる。小樽

市では今後においてどのように取り組んでいくのか。

　（３）経済効果を考え、外国人観光客の消費拡大に向けた取り組みをどのように行うのか。

***３．高島地区の観光船事業に関するコンプライアンス委員会の報告を受けての是正について***

（１）この報告を受けて、小樽市では、これら通報対象事実につき、法律に則り是正措置を取るというが、

いつ開始するのか。

（２）関わった職員を処分するということだが、いつどのように行うのか。

***３．中央バス減便にについて***

　　今冬の中央バス減便について、同社社長と関係悪化をさせた市長や対応の遅い市の責任は重い。

（１）減便の割合はどのくらいか。

（２）市はなぜ、中央バス社からの減便に関する最後通牒ともいえる文書への対応を11月まで放置したか。

（３）今後において、どのように同社社長と市長の関係改善を行っていくのか。

（４）今回のバス減便により市民の生活利便性に影響が出た。この結果に対する市長の責任をどう取るのか。

***４．除排雪・貸出ダンプ制度について***

（１）今年度の除排雪体制と総合除雪のJV編成及び入札について

（２）貸出ダンプ制度の変更と住民への説明について

***５．厚生に関連して***

（１）検診に関して　　　　（２）市立保育所における保育士の状況について

**・今冬の除排雪状況をみて、排雪業務に市民から不満続出！－市民ニーズに適った予算付けを**

　　もう一点の減額の主なものは、除排雪予算、とりわけ、排雪に直結する除排雪業務委託料の計上、７億６４１４万円についてであります。今年は昨年より積雪量も多かったのに、排雪事業が昨年の半分くらいしか進まない状況でした。市民の方からは、いつまで待っても排雪してくれない、など多くの苦情が寄せられた今冬の小樽市の排雪状況でした。特にひどかったのは、３学期が始まるというのに、学校周辺の排雪が全く入らない状況というのも多く指摘されていた中で、議会でも多くの議員（私含む）から除排雪の状況の質疑が行われ、そこから判明したのは、市が予算ありきで除排雪事業を行っていること、排雪を行う路線を小樽市総合除雪対策本部会議（公正性の観点から本来入るべきでない市長も中に入っている）という不透明な会議の中で決めており、会議録などは一切ない、排雪についても、道路に高く積み上げられた雪をどの時点で排雪するか、道路幅がどのくらいになったら排雪するかという基準を設けず、今後も設けない、業者と協議をしながら進めている、と言いながら、業者の意見などほぼ取り入れず市が一方的に進めているということなどです。

　　市では、今冬の除排雪状況を検討もせず、次の冬の除排雪予算を計上してきました。しかも、その予算をみると、小雪だった平成２９年度の予算より、１０００万円も減額しての計上です。冬の市民の生活利便性確保の観点から、この状況を看過するわけにはいきません。そこで我々は、今冬の除排雪状況をしっかり検討し、市民ニーズに適う予算計上を求めて、当該予算を一度差し戻しを致しました。

**・除排雪予算以外で、議会が減額修正した主な予算**

　☆市長交際費増額分（２５万円）→０円

　　これまでの市長は、年間の交際費を７５万円の予算でやりくりしてきました。市長本人が、厳しい財政状況を訴えている中で、何で増額ができるのでしょうか。その増額分予定使途について、議員の質問には明確な答えが返ってきませんが、数多くの町内会の新年会などに顔を出すためのようです。連合町会の総会等の出席でそれに代えるべきですし、公務性が認められません。選挙活動なら、公費負担の対象外の部分です。

　☆IT関連企業等誘致促進補助金（１０００万円）→０円

　　誘致企業に事務所リフォームなどの助成を行う事業費です。対象企業をIT関連企業としておりますが、議会質疑で判明したことは、コールセンターなどの会社を想定していること、２９度の事業実績は０であり、次度も、今のところ見込みを含めて０の状況とのこと。一度、対象とする業種など、企画レベルから見直すべきであり、見込みが出た時点で必要分を補正予算計上するよう求め、当初年度予算から削除しました。

　☆創業支援事業費（１９００万円）→１５００万円（▲４００万円）

　　２９年度の実績と今後の見込みを勘案し、必要分を計上。もし、追加で必要な状況が発生したら、必要額の補正予算を提案することを求め減額しました。

　☆港湾計画改定事業費（２０万円）→０円

　　小樽港港湾計画が平成３０年度改定予定でしたが、当初計画の貨物量と現状実績との乖離があり、これまで進めてきた、港湾計画改定作業を中断する、というのが、森井市政の立場であります。これには港湾関係者や、市内経済界も反発しており、議会でも、多額の予算をかけて進めてきた事業を中断するとは何事か、予定通り進めるべきだとの意見が挙げられましたが、森井市政は頑なにこれを拒んでおります。そのような状況下で、港湾計画改定事業費が計上されること自体異常だということで、この予算も凍結すべきと判断しました。

　☆水難救助事業費（４００万円）→０円

　　この事業は、銭函の海岸（限定）で、水難事故が発生した場合、その救助に当たるために、消防職員３名を海岸線に配置し、救助用ボート（原動機付）を新規購入する予算ということでした。

　　小樽市の海水浴場は銭函だけではありませんし、昨年、銭函付近で発生した水難事故の多くは、海水浴場指定外のエリアでした。また、飲酒等も水難事故の起因となります。救助については海上保安庁等の管轄であり、市として取り組むべき事業は、水難を未然に防ぐため、海水浴場外での遊泳をしない、飲酒後に遊泳しないことをしっかり周知することです。そのための事業費ならばともかく、市民の税を使ってのこの予算は認められません。

*※法律上議会は予算の修正権があります。減額修正はできますが、原則増額修正はできません。*



通信vol 18

平成29年12月28日

発行責任者：中村よしひろ事務所　後援会会長：角谷　淳

〒047-0023　小樽市最上１丁目１９番２３号　電話・FAX（0134）32-4778　　直通090-6696-9787

リアルに提言

**小樽市議会第１回定例会終了**

**～小樽市一般会計予算修正案可決～**

市民生活に直結しない予算を減額

―ふれあいパス制度存続と冬の排雪予算見直し求める－

　日々皆様には大変お世話になっております。いつも中村 よしひろに、皆様の温かいご支援を賜り、誠に有難うございます。

今回は、第1回定例会について、お知らせいたします。今回の定例会は、平成３０年度小樽市の歳入歳出会計予算を審議する議会でした。財政調整基金（市の貯金）を大きく取り崩す予算編成を行う厳しい財政状況の中で、示された平成３０年度の予算案を調べてみますと、各会計科目の予算を減らす一方で市長交際費を増額させたり、実績のない事業を継続しようとしていたりと、森井市政３年目の予算案に議会の各議員から疑問が呈されて、各会派代表質問や予算特別委員会で審議されました。

平成３０年度の、市民生活に大きく関わる大事な議会であります。その議論経過等をお知らせ致しますが、正常な地方自治体では、そもそも予算案が原案通り議会を通過するものですが、本市では、そうならなかった、それは、予算の面から、市長が市民を見つめた施策を展開しようとしていない、ということの現れです。議会はしっかりチェックしております。

**・小樽市一般会計歳入歳出予算案の原案は、５５９億１３５５万２０００円**

この予算案を、５５１億１０３１万１千円と減額修正しました。約８億円の減額修正です。議会がこの減額修正を可決させた主な理由は、ふれあいパス事業について、利用者負担分（１回１２０円）を除いた部分（１回１００円）について、昨年度の前半まで、小樽市が７０円、中央バスが３０円を負担していた所、中央バス社の経営難により、同社負担を見直して欲しいという要請があり、これを含めた市側の不誠実かつまずい対応のため、中央バス社との信頼関係が破たん、負担依頼をできなくなったため、今年度は、これまで中央バスが負担いていた部分も（４３５０万円）小樽市の負担となったものであります。市民負担が大きく増えた形となりました。

これに対して森井市政は、何らの財源対策を行わず、その検討もせず、当たり前のように予算計上してきたものであります。これについて、我々は４３５０万円全額とまではいかないまでも、財源ねん出のため、不要と思われる予算を洗い出し、その事業の凍結を行うことで、少しでもふれあいパス事業費への財源を確保しようと努めました。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（裏面へ）